

Hawaii Wedding Story

一生に一度の大切なハワイ物語

憧れのハワイ挙式を『ファーストウェディング』で実現させたふたりの、実話エピソードをお届けします。
第12回目は、自分たちらしさにこだわった、斉木さんの物語です。

Text : Michiko Honda Photo : RYO

Vol. 12

「家族の絆」

共通の友人を通して出会った私たち。最初は彼のことを「お調子者でちょっと苦手」と思っていた。けれど初めてのデートで、彼のスマートな対応と、誠実な部分を知り、少しずつ気になりはじめた。そして、何度かデートを重ねて彼からの告白。今日言われなかったら自分から言うかと思っていたくらい好きになっていた。迷わずOK。そうして交際がスタートした。

*
いつも私の想像を超える演出をしてくれる彼。付き合ってから初めての誕生日には、横浜のホテルをとって、サプライズパーティをしてくれた。サプライズ自体が初めてだった私の

中にその思い出は色濃く残り、何かある度にまたあのホテルに行きたいね、と話していた。そうして付き合ってから8年が経ったとき、もう一度そのホテルに連れて行ってくれることに。いよいよプロポーズしてくれるのかな？と心を弾ませた。レストランでの食事の際、最後に出されたケーキには、誕生日ではないのになぜかハッピーバースデーの文字。2人して「間違いないか？」と言ったけれど、合っているとホテルの人が言うので、笑いながら食べた。そうやって時間が過ぎてゆく中、期待とは裏腹で、いつもと変わらない彼の態度。「今日、プロポーズはないんだな」と少しだけ残念な気持ちで部屋

に戻ると、花束と花びらできれいにセッティングされたベッドが目に入った。「またホテルの人、間違えてるね！」と笑う私に、彼は「違う違う！結婚しよう」と少し焦って言うてくれた。待ちに待ったプロポーズは、私たちらしくロマンチックよりも笑いのあったことと覚えている。

ろう。ありきたりな式ではなくて、自分たちらしく、人と違うもの。例えば、ハワイだけ緑に囲まれて、家族みんなでガーデンパーティ！と夢を膨らませていた。そんなとき、『リジェストランドハウス』の写真を見て、ここで挙げたい！とピンときて、ファーストウェディングに辿り着いた。



*

式の準備は順調に進んだけれど、唯一悩んだのがドレス。20着ちかく試着しても、自分の希望通りでしっくりくるものがなく、ドレスを着る資格がないかもしれないと思うほど落ち込んでしまった。そんなとき、私の話を聞いてくれていた担当のKさんから「オーダードレスを作ってくれるセ・ミューというブランドなら、桃子さんのイメージするドレスに出会えるかもしれないよ」とアドバイスを受けた。どうせ無理だろうけど、行くだけ行ってみよう、デザ

ハワイでの挙式を考えたのは、家族水入らずの式が良かったから。考えてみると、両家そろって何日も一緒にいられる時間は人生でそう何度もないと思う。ましてや海外でなんて、特別なことだ。だからこそ、とにかくみんなが楽しめること、そして自分がやりたいことをすべてや

インナーさんを訪ねた。確かに好きなタイプのドレスがたくさんあったけれど、試着してみるとやはり悩んでしまう。そう思っていたとき、一枚の写真が目にとまった。袖のラインが特徴的でシンプルかつ洗練されたドレス。思わず「コレ!!」と声をあげそうになるほど、嬉しかった。すぐに試着させてもらおうと、今まで

*
日本に帰国してから、式に参列した全員が「またみんなハワイに行きたい」と口をそろえる。みんな「どこに行っても素晴らしい景色が広がり、心地よい時間が流れるハワイ。いつか本当に、全員そろって戻って来られたらいいな。」

お問い合わせ先 www.first-wedding.net